

少年の主張

平成 24 年度最優秀賞

つな が り

八百津中学校3年 岩井文菜さん



私は今、病気と闘っています。
 病気と分かったのは、小学校5年生の時でした。
 1度手術もしたし、今でも入退院をくり返して治療を続けています。

病気のことを初めて知ったときは、すごくショックで泣いてばかりいました。「なぜ私だけがこんな目にあわなくてはいけないのか」と、病気を恨みました。みんなに病気のことを知られなくて学校に行きたくありませんでした。友達との関係を絶ってしまおうかと考えたこともありました。

しかし、今こうやって普通に学校に来られるのは、私の周りにいる友達や仲間のお陰なのです。

私の入院中に、同じ学年の仲間が千羽鶴を作ってプレゼントしてくれました。私のことを応援してくれる人がいることを知って、本当に嬉しかったです。また、遠い病院までわざわざお見舞いに来てくれたり、私が休んでいる間、ずっとメールをくれた友達もいます。

「大丈夫、早く学校に来てね」

このメールは、寂しいときに心の支えになりました。

今こうやって楽しく学校に行くことができるのも、温かくて心強い友達や仲間のお陰だと思っています。普段なかなか言えないけれど感謝の気持ちでいっぱいです。

『ありがとう。』

この病気を通して、改めて友達の優しさにふれ、友達のありがたさを知り、人と人とのつながりがどれだけ大切なのかを知りました。

また、何度も入退院をくり返す中で、同じような病気を持つ仲間と沢山の出会いがありました。新しく友達も出来て、色々な事を学ばせてもらいました。

同室になったある女の子は、手術で目が失明していました。でもその子は、いつも明るくて可愛い笑顔で、周りまで元気にしてくれました。私もその笑顔に元気づけられました。私が退院するときには、目が見えなく片手しか使えないのに折り

紙を折って、「おめでとう」と言ってプレゼントしてくれました。私は、すごく嬉しくて驚きました。その子から、私は、限界を決めるのは自分なんだということを深く感じました。また、楽しいことがあるから笑うんじゃないで、笑っていればきっと良いことがあるように変わりました。このことから私は、病気のことで泣かないようにしようと決めました。

また、同じような手術で手足が動かなくなっ てしまい車いす生活の女の子と同室になったことがありました。学校も行けないから辛いだろうと思っていたけれど、その子は、そんな感じさせない位元気で前向きでした。そして毎日、学校に行く為に必死にリハビリを頑張っていました。学校に行きたくないと思っていた自分が恥ずかしく なりました。

ある時、その女の子が「後ろばかり見ても治らないし、治るって信じて前向きでいた方が絶対良いよ」と教えてくれました。

本当にその通りです。私は弱音ばかりはしている場合じゃない、頑張ろうと思いました。

それからは、辛い治療も、前向きに取り組むようになりました。

私も、どんな困難にも立ち向かう強い心を持って、いつでもあきらめず色々なことに挑戦し続けることを、絶対に忘れません。

この入院を通して普通に生活できることがどれだけ幸せなことかが分かりました。だから私は、一日一日を大切に、しっかり生きていきたいと決意しました。また、人と人との関わり、つながりが本当に大切なんだということが分かりました。人とつながり合うことで、色々なことを教えられたり学んだり、心の支え、元気の源になるのです。

一人じゃないから、人は頑張ることが出来るのです。

私は、この学んだことをもとにして、自分の病気としっかり向き合い、今度は別の誰かを勇気づけ、笑顔にさせる、そんな人になりたいです。